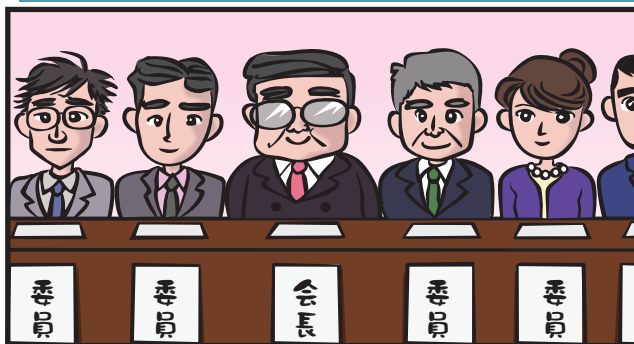
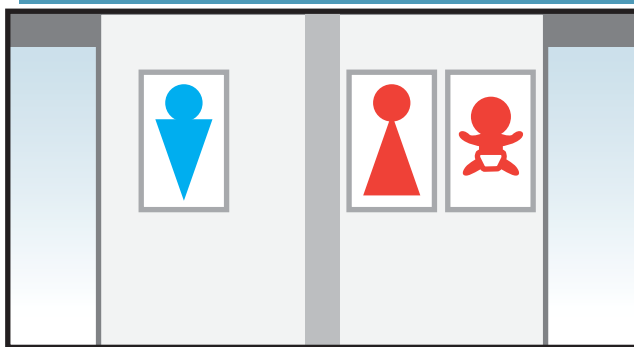


これってジェンダー平等ですか？

地域・メディア編
？

ある地域・メディアでのシーンです。
ちょっとヘンだと思いませんか？



これってジェンダー平等ですか？

地域・メディア編 解答例



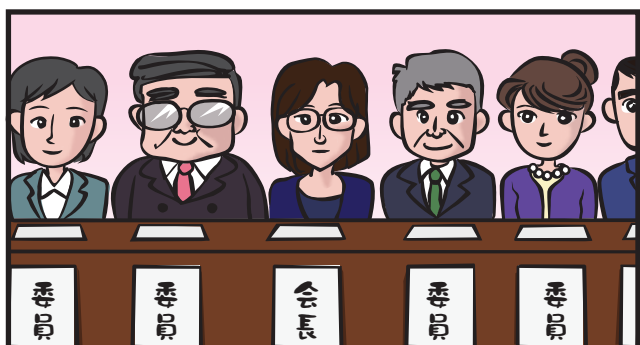
■防災における男女平等

男性のみが、直接的な消火活動に従事し、女性は広報活動や炊き出しなどの役割を担っているケースを見聞きしますが、性別にとらわれることなく、共に訓練を実施し、時と場合によって、臨機応変に活動していくことが、男女共同参画社会につながります。また、このような対応は、災害時等に地域を守ることにもなります。



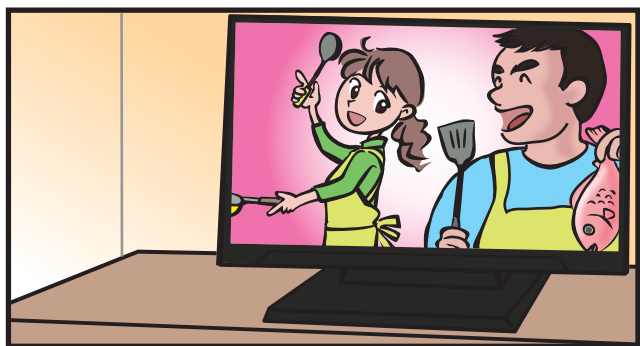
■トイレ問題

女性用と男性用に便宜的に分ける必要がある場合もあるでしょうが、その場合でも特に色分けする必要はないでしょう。また、女性用にだけ、子ども用やベビーベッドのマークがあると、女性だけが子育てをするべきであるというメッセージにつながってしまいます。さらに、実際に女性用にしかそれらの設備が設置されていない場合には、父親の育児が大変になってしまいます。双方のトイレにベビーベッドの設置をする必要もあるでしょう。



■地域の委員、議員の性別アンバランス

地域には、様々な委員会があります。その構成メンバーがどちらかの性に偏っているということはないでしょうか。地域を構成している割合がおおむね男女同数であるならば、委員の性別構成も半々、もしくは4対6ぐらいであるべきですよね。メンバーは女性が多いのに、役職者が男性に偏っていませんか。リーダーシップの能力に性別による違いはありません。適材適所、性別に関係なく役員配置をすることが、地域の活性化にもつながるでしょう。



■コマーシャルは男女平等になったか？

「私作る人、僕食べる人」というインスタントラーメンのCMが問題になり、北京で開かれた世界女性会議においても議論されました。北京会議から20年以上経ちますが、CMは男女平等になったでしょうか。相変わらず、固定的な性別役割分担意識から抜け出せていないCMも多くあります。マスメディアの影響力はますます大きくなっています。それらを疑問視できるメディアリテラシーを高めていくことも必要でしょう。



■報道内容は、男女平等か？

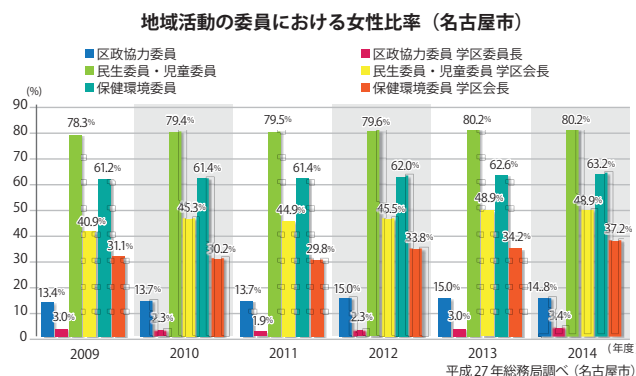
小さい子どもの事故死や虐待等の事件で、まず問われるのは母親が何をしていたかです。確かに母親の問題行動に原因がある場合もありますが、父親がしっかり育児に参加していれば防げたケースもあるでしょう。にも関わらずまず責められるのは母親だという報道姿勢は男女平等とは言えないでしょう。

これってジェンダー平等ですか？

地域・メディア編 解説

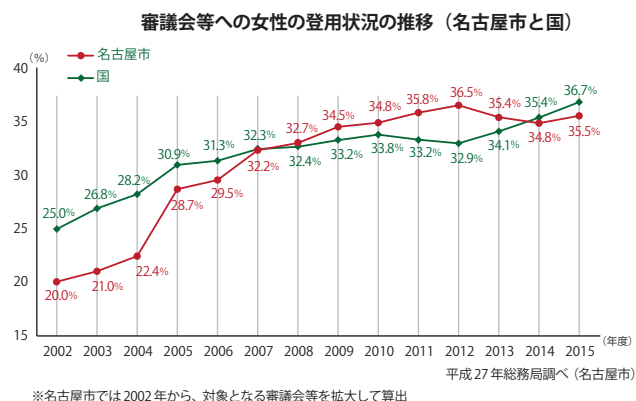
関連する法令やデータから、さらに解説します。

地域活動の委員における女性比率



名古屋市の区政協力委員の女性比率は、2014 年度で 14.7%、学区委員長に占める女性比率は 3.4% です。地域における女性の参画度が極端に低い状況であることがわかります。女性たち自身も女性であることを言い訳にせず、積極的に地域の活動に参画していきましょう。男性たちも慣習にとらわれることなく、共に地域に暮らす住民として協力していきましょう。

審議会等への女性の登用



名古屋市と国の 2002 年度からの推移を見ますと、ともに上昇傾向にはありますが、名古屋市は 2015 年度に、40% 以上 60% 以内という目標値に届いていません。登用率を上げるとともに、委員として審議会で発言し、参画できる女性を増やしていくことも重要です。そのための仕組み作りや学習の場の提供が、イーブルなごやにも求められています。女性たちも社会に対する問題意識を持って、自分たちの暮らしをより良いものにするために、公募委員等に積極的に応募しましょう。

子どもを守る地域ネットワーク（要保護児童対策地域協議会）

「子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について」によりますと、主たる加害者は、「実母」が 16 人（44.4%）と最も多く、次いで「実父」が 8 人（22.2%）「実母と実父」が 5 人（13.9%）でした。主に母親が育児役割を担い、担い切れなかった結果であるともいえるでしょう。父母共に他に救いの手を見つけることができなかったのでしょうか。

このように、母親のみでなく、家族も地域から孤立した結果、尊い子どもの命が失われてしまっているという事態を重く見て、厚生労働省は、関係機関の間で子どもや保護者に関する情報の交換や支援内容の協議を行う場である要保護児童対策地域協議会について、その機能強化に向けた取組を推進しています。

—「子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について（第 11 次報告）の概要」社会保障審議会児童部会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会（平成 27 年）より—

メディアにおける男女平等

子どもたちは、家族や地域の中で成長し、社会化されます。社会のあたりまえを身に付け、現在の規範を内面化していきます。現代社会においては、それだけではなく、それらに与えるメディアの影響も大変大きいものがあります。そのメディア報道では、男女平等参画が実現されているといえるでしょうか。今なお残るコマーシャルにおける固定的な性別役割や、女性や性的少数者に対する差別的な言動が、メディアを通して流されています。テレビ・ラジオだけでなく、インターネットを通して様々な情報が提供されています。これらメディアが提供する報道内容を男女平等参画の視点から、批判的に読み解くために、メディア・リテラシーを高める必要があります。